

Faculty of Engineering Okayama University

岡山大学工学部 同窓会報

No.30

2018.8.1



Contents

工学部長挨拶	2	柳瀬眞一郎先生退職記念祝賀会報告	17
代表幹事挨拶	3	ヨット人生夢航海 石井泰三	18
退職にあたって	4	新任・昇任・退職等教員紹介	20
学科の最近の話題	6	寄附者一覧	21
スーパーグローバルホームカミングデイ	9	会計報告	23
職場紹介、各支部報告	11	同窓会事務局より	24

大学教育と同窓会や同窓生の皆様との関わり



工学部長

阿部 匡伸

本年度より工学部長を拝命しております情報系学科の阿部と申します。よろしくお願ひ申し上げます。過去4年間に渡り工学部副学部長を仰せつかっておりましたが、その間、同窓会や同窓生の皆様には大変お世話になりました。ここに心よりお礼を申し上げるとともに、幾つかの事例を紹介させていただきます。

第一に就職関係です。毎年OBやOGの方々に企業説明会を開催して頂いております。比較的若い方々に来て頂くことが多く、岡大生の目線で説明し得るため、学生らにも好評です。第二は教育に関わる支援です。「実践コミュニケーション論^{注1}」では、工学部同窓会を通じて非常勤講師をお願いしています。この講義では、異なる価値観の人々と働くために必要となる「社会人基礎力」を鍛えます。非常勤講師の先生方には、豊富な社会人経験に基づいて、多様な考え方やコミュニケーション方法をご指導頂いております。第三は海外研修への協力です。工学部では28年度から海外短期研修プログラム^{注2}（DIG：Dive Into Global society）を開催しています。この研修の目的は、海外へ思い切って出て行って、グローバル化を身近な現象と捉え、自らの将来との関わりを考えることです。毎年9月にタイペイ（台湾）、3月にバンコク（タイ王国）で開催しています。毎回30人弱が参加しています。学年・学科混合でユニークなグループ活動となっています。この活動の目玉は、海外の日本企業を訪問し、日本人の社長、営業部長や若手社員の方々から、現地での工夫、苦労、楽しさや、海外赴任の経緯など、生々しい話をお聞きすることです。タイペイでは滝澤鉄工所様、バンコクでは倉敷化工様の工場を見学させて頂いております。このユニークな研修が実現できたのも、岡山大学の同窓生の温かい支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

さて、昨年からは工学系の教育改革が活発に議論^{注3}されています。イノベーション人材を育成できていないという問題意識です。施策の1つに「産学共同教育体制の構築」が挙げられています。この観点からすると、先に述べた同窓会との連携はよいアプローチだと感じています。一方、社会人の学び直しも重要な観点となっています。学び直しの目的は、卒業後の年数に応じて異なるでしょう。グローバルに活躍するために博士号を取得したい、最新技術を俯瞰したい、などでしょうか？学び直したいときは、いつでも母校においでください。大学としても同窓生の皆様の御要望に応えたいと考えています。このように今後もますます同窓会や同窓生の皆様との連携が深まる方向にあると思っています。秋のホームカミングデイにも是非お越しください。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

注1：http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/index.html

注2：<https://www.eng.okayama-u.ac.jp/topix/2632/>

注3：「大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会」

「工学部同窓会からのご挨拶」

新 入生の皆様、同時に、工学部同窓会新会員の皆様、岡山大学工学部に入学され、大学生活も軌道に乗りつつある頃と思います。初心を忘れず、この恵まれた岡山大学でぜひとも良いものを得ていただきたいと願っています。

さて、工学部が昭和35年（1960年）4月1日に機械工学科と工業化学科の2学科（定員各40名）で設立されて以来、学科増、定員増を伴って学部が発展し、同窓会会員は、現在20,000名を超えています。また、現旧教員も工学部同窓会正会員です。

工学部同窓会は、各学科（系学科）を基盤とした学科同窓会があり、また工学部同窓会OBを中心にした、関東支部、関西支部、岡山支部の3支部があります。

幅広い年代で、また、国内外の多種多様な分野の第一線で活躍されているOBが同窓会を通してつながり合うことができ、また、それが新たな力を生み出す契機となれば素晴らしいと思います。

同窓会として、皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りしています。また、同窓会へのご理解とご支援をよろしくお願い致します。



工学部同窓会代表幹事

酒井 貴志

（昭和45年合成化学科卒）

工学部同窓会の活動

- ① 会員名簿の整備：工学部同窓会は、在学生、卒業生、現旧教員が正会員です。現在は、冊子体での名簿発行は行わず、電子媒体での情報管理を小野高速印刷(株)に委託しています。また、定期的に名簿調査を行っています。同窓会活動のために名簿情報の必要な方は、工学部同窓会事務局にご相談ください。
- ② 「岡山大学工学部同窓会報」の発行：毎年、8月初旬に学内外の同窓会情報を会報として発行しています。会報が、会員相互の情報交換、世代を超えた人的な交流の要になることを願っています。会員からの寄稿も歓迎しています。
- ③ 「岡山大学スーパーグローバルホームカミングデイ」（毎年10月）における工学部同窓会総会、報告会、懇親会の開催：大学全体で様々な企画があります。会報を参照下さい。
- ④ 各学科同窓会による、学生の就職支援、OBによる企業紹介、講演会などの開催、及び学科の教育活動支援：在学生とOB相互に役立つ情報交流の場を設定しています。
- ⑤ 支部活動支援：関東支部、関西支部、岡山支部の活動を支援しています。
- ⑥ 岡山大学Alumni（全学同窓会）との協力
- ⑦ 会費のお願い：主として入学時またはその後の会費と、会員からの寄付金が活動の原資です。会費は、岡山大学Alumni（全学同窓会）会費10,000円と工学部同窓会会費10,000円の合計20,000円を入学時においてお願いしています。また、卒業生、教職員の皆様からは多額のご寄付をお寄せいただいております（寄付者一覧、会計報告参照）、ご支援に厚くお礼申し上げます。入学時に納入できなかった方には、後日、納入の依頼を送らせていただいております。
- ⑧ 同窓会活動は、代表幹事と各学科から選出された学内幹事・学外幹事による幹事会により運営されています。詳細は、各学科の学内幹事または事務局にお尋ねください。

退職にあたって

退職にあたって

機械システム系学科

柳瀬 眞一郎



退職したからといって特に書けるようなお話はありませんが、よもやま話をつづつてみたいと思います。わたしは博士課程を修了後、直ちに岡山大学に就職し、そのまま定年を迎えたので職場は岡山大学だけで他は全く経験がありませんが、まあ自分にとってはいい職場であったのかと思っています。その理由としましては自分の好きな研究をし、書きたい本を書き、学者らしい生活を送らせていただいたからと申しておきましょう。

最初に働いたのは工学部共通講座の工業数学講座で、山本恭二教授の助手から始まりました。実は助手を長く続けてのんびりとした大学教員生活を送りたかったのですが、講義をする人間が必要ということで2年ほどで講師にさせていただきました。年間4コマの応用数学の講義をすることになりました。ただ、卒研や修論の学生は機械工学科、応用機械工学科の学生が回って来て、実質的に機械・応用機械工学科のメンバーとして過ごしました。ただ後からわかったのですが、本当の機械・応用機械学科の教員と比べれば格段に雑用の少ない恵まれた職場でした。結構時間があつたので専門の流体力学の本やら、応用数学関係の本を読みふけりましたが、その経験は後に役に立っています。また余裕があつたので、コンピュータソフトの開発もやりました。特にスペクトル法による流体方程式の解法に関するプログラム開発にかなり時間をかけて行うことができたのは大変ありがたかったです。今から思えばその頃の学生はまだソフトウェア開発に興味のある学生も多く、一緒に開発することができたのは懐かしい思い出です。

ただ世の中はそう楽しいことばかりではありません。やっと共通講座の応用解析学講座で教授にさせていただいたと思ったら、突然共通講座は解体し各学科に所属しなさいという決定がなされ、わたしは機械工学科へ所属となりました。そこから忙しい日々が始まってしまいました。講座名はなぜか機械基礎学で少しへんな名前と思いましたがそう言われたので仕方ありませんでした。要するに、工学基礎の微分積分学や線形代数、力学などの講義を担当しなさいということでした。まあこれらの科目は嫌いでもなかったので喜んで講義をさせていただきました。仕事として忙しかったのは何と言っても教務委員で、

これは大変な仕事だと思いました。特に試行でクォーター授業をやると言われたため、そのための時間割作成を一人ですることになりましたが、クォーター授業は結局大失敗で、数年でやめることになりました。最近またやっているのはいかがなものかと思えます。そうこうしながら機械基礎学の仕事に慣れたころ、わたしよりも先に機械工学科の流体工学研究室の教授へ移られていた山本先生が退職となり、わたしに次期教授選考を考えたという話がありました。いろいろと人材を探していたのですがこれらと思う人には逃げられたりで選考が難航していたころ、わたしに流体工学の教授に移らないかという話があり、深く考えずなんとなく引き受けました。

それが大変なことになりました。この時点までは、どちらかと言えば工学部内の目立たない場所を歩いてきたものが、突然日の当たる・目立つ場所に入ってしまう、若干目がくらんでしまいました。わたしは無知なことにはほとんど理解していなかったのですが、流体工学は機械工学では特に重要な研究分野で、わたしは自動的に工学部でも重要な研究室の教授、つまりボスになってしまったわけです。そうなってから急にあわてて流体工学に適した、つまり実験を含む応用研究もしなければいけないと思立ち、柄にもなく力んでしまってそのようにしたんですが、これまでそんな研究をしたことがなく、あまり実際の役に立たない流体の理論的・数値的研究にいそしんでいたものがすぐに切り替えられるわけもなく、数年間は研究成果が出ず苦労をしました。幸運なことに4年ほどたってまああの成果が出るようになり、何とかやっていたけるようになりました。流体の教授は12年間務めました。非常に密度の濃い12年間で、いいことも悪いこともいっぱいありましたが、とにかくやりがいのあるポストでした。

退職後は、なるべくみなさんにご迷惑をおかけしないようひっそりと生活を送る予定です。多くの方々にお世話になりましたがろくにお礼もできませんでしたので、この場をお借りして深く感謝申し上げたいと存じます。



約 40 年の大学教員を振り返って

機械システム系学科

渡邊 桂吾



平成 30 年 3 月 31 日をもちまして、定年退職を無事、迎えることが出来ました。以下では、38 年 3 ヶ月の旧国立大学での教員生活を、簡単に振り返ってみることにしました。

私は、昭和 53 年 3 月に徳島大学大学院工学研究科修士課程を修了し、民間企業等での勤務を経て、昭和 55 年 1 月に九州大学工学部助手（航空工学科）になり、昭和 59 年 11 月に論文博士として工学博士を頂いたのを契機に、その当時ではまだ珍しかった公募にて、昭和 60 年 4 月静岡大学工業短期大学部助教授に採用されました。この種の組織は、現在の夜間主コースの前身であり、学生へのサービスは教育が主であることから、昼間は自分自身での研究に没頭できる時間に恵まれている反面、学生らとの共同制作や実験の機会がないことから、知人の紹介により平成 2 年 4 月佐賀大学理工学部助教授へと転出しました。当時、殆どの地方大学にも博士後期課程が設立されつつあり、佐賀大学へ移った理由は、とりもなおさずこの後期課程の教育研究や運営を託されたことによるものでありました。そのことから、平成 5 年 4 月には教授にして頂き、また平成 10 年 4 月からは独立専攻（生体機能システム制御工学専攻）で 11 年間、特に博士後期課程の学生の教育研究に邁進してきました。がしかし、この 11 年間は益も正月も全くない状態と言っても過言ではない「馬車馬のごとくの」教員生活で、思うところあり平成 21 年 4 月に本大学に転出してきた次第です。

研究活動におきましては、徳島大学時代に、添田喬教授・芳村敏夫助教授・小西克信助手先生からなる機械力学研究室で培った確率統計手法による推定と制御を始めとし、ファジィ、ニューロ、GA 等を用いたインテリジェント制御とその各種ロボット制御への応用に関する研究を推進し、非ホロノミック移動体の制御、全方向移動ロボット、水中ロボット（マンタロボット、X 4 -AUV）の制御、飛行ロボット（マルチロータ型、ブリンプ型）の研究など数多くの業績をあげることができました。成果として、著書・論文においては、44 編の著書、313 編の原著論文、601 編の国際会議プロシーディングスを発表することができ、これまでに、佐賀大と岡山大で計 36 名の博士後期課程の人材を輩出することもできました。

一方、学会活動では、ICCAS-SICE 2009 組織委員長、

SCIS & ISIS 2010 実行委員長、FAN2017 実行委員長、SICE 常務理事（2009～2010）を歴任し、平成 21 年には日本機械学会フェローに、平成 25 年には計測自動制御学会フェローに選出されました。社会貢献としましては、国内では、日本学術会議専門委員、日本学術振興会にて科研費審査委員、特別研究員審査委員などを拝命しました。また、アジア諸国の大学支援、特にマレーシア、インドネシア、ミャンマーなどの大学の学外研究評価委員、国際シンポジウム運営協力、教育・研究立上げ支援等を行ってきました。

定年制度は、英国を除くヨーロッパやアジア諸国には存在しますが、カナダ、米国、オーストラリア、ニュージーランドなどにはないようです。特に、わが国では、昨今、人生 100 年という言葉が良く聞かれるようになり、少子高齢化社会での働き方の検討を政府が行っている真最中であります。近い将来には、わが国の人口構造が逆ピラミッドにより強くなることから、働き世代をより高齢の人々にまで頼るしかなく、定年が 70 歳前後となるか、英国や米国のように定年年齢のない大学も出てくるかもしれません。

なお、私事ですが、この 4 月より引き続き自然科学研究科にて教授（特任）として、学生の教育・研究、および研究室の運営を任されております。特別契約職ですので、いつまでこれが続くか不透明ですが、有難く感謝しております。本学での定年退職までの期間は、大学教員生活の約 1/4 の 9 年間ではありましたが、非常に充実したものでありました。これも皆様方のお蔭だと感謝しております。最後に、皆様のご多幸とご健勝をお祈りいたします。



機械システム系学科 機械工学コースの近況

機械システム系学科・学科長 岡田 晃



同窓生の皆様、旧教職員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

機械システム系学科は、1960年に工学部設立と同時に前身の機械工学科として設立されて以来、改組を経ながら59年目を迎えています。工学部の基幹を成す分野であり、ここ数年は学生の就職も極めて好調で大半の学生がほぼ希望の就職先に合格する状況です。現在、就職学生に産業界で求められる能力としては、専門知識だけでなく課題解決能力やコミュニケーション能力がありますが、機械工学コースでは早くからこういった能力の育成にも注力しています。また、同窓生の皆様のご活躍が当コース学生の高い評価にも繋がっており、厚く御礼申し上げます。

一方、2017年版ものづくり白書によると、かつては「ものづくり立国」と称された日本ですが実際に就業者数に占める製造業従事者の比率は16.4%（2014年度）であり、2000年度の20.5%から減少の一途を辿っています。しかも、中国28.7%、ドイツ19.6%などと比較しても低く、就業者数の点では、もはやものづくり立国といえない状況にあります。また、経済産業省の報告では、技術者の人材不足が常に懸念され、特に5年後以降にはIT分野以上に機械工学分野の人材が大幅に不足することも指摘されています（2018/4/25日本経済新聞）。ただし、製造業従事者の平均所得はそのほかの業種よりも高くなりつつあり、

最新のデータでは日本国内での製造業が盛んな地域の所得水準が高いことも周知されつつあります。こういった状況が工学部、ならびに機械システム系学科の人気の後押しとなってくれることを願っております。

教職員も機械システム系技術者育成の重要性を改めて認識し、より質の高い教育の実施に努めるとともに、スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）、研究大学強化促進事業、ならびに持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みの下で、企業との共同研究をはじめ、科学研究費補助金や受託研究など多くの外部資金を獲得し、研究の推進とそれを通じた実践力のある人材の育成に尽力しております。同窓生の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、2016年5月以降の機械工学コースの人事異動は以下の通りです。

【退職】柳瀬 眞一郎 教授（2018年3月、現在、岡山大学 教授（特任））

【転出】木之下 博 准教授（2017年3月、現在、兵庫県立大学 教授）

春木 直人 准教授（2017年3月、現在、岡山県立大学 教授）

中田 隼矢 助教（2017年9月、現在、岐阜大学 准教授）

【着任】児玉 紘幸 講師（2017年4月）

塩田 忠 准教授（2018年4月）

【昇任】山田 寛 講師（2018年4月）

電気通信系学科の近況報告

電気通信系学科・学科長 横平 徳美



同窓生の皆様、お元気にお過ごしでしょうか。平成30年度電気通信系学科長をしております横平と申します。出生率が減少し続ける中、当学科の入試倍率は2倍前後で推移しており、依然としてやや厳しい状況が続いております。一方、学生の出口に目を向けますと、景気回復が伝えられている昨今、学生の就活状況は益々売り手市場となり、当学科にとっては嬉しい状況が続いております。同窓生の皆様方

には、高校生の保護者の知り合いに当学科をアピールしていただくと同時に、皆様ご自身の会社や知り合いの会社の方に、当学科の卒業生を積極的に採用していただくようお願いする次第でございます。

さて、当学科の近況報告として致しまして、(1)当学科教育カリキュラムの3コース化、(2)当学科と情報系学科を中心に進めている文部科学省教育プログラムenPiTの実施状況について書かせていただきます。

(1) 当学科教育カリキュラムの3コース化

平成23年度工学部改組により、以前の電気電子工学

科と通信ネットワークを統合して電気通信系学科が設立されましたが、その際、教育カリキュラムは、旧学科に対応して、電気電子工学コースと通信ネットワークコースの2コース制で開始されました。学生は2年生後期からいずれかのコースに配属され、研究室配属も、各コースに関連した研究室にのみ配属されていました。しかし、このままでは旧学科の垣根がいつまでも続き、真の意味での統合は難しいという議論になりました。そこで、コースについては、高校生によりわかり易くするために、エネルギー制御コース、知能エレクトロニクスコース、ネットワーク工学コースという3コース制にした上で、コース配属と研究室配属を独立させる、すなわち、どのコースに配属されようとも、どの研究室にも配属できるというようにしました。このようにすることにより、学科としての一体感が格段に強まると考えています。

(2) 当学科と情報系学科を中心に進めている文部科学省教育プログラムenPiTの実施状況

IoT (Internet of Things)、ビッグデータ、AI、セキュリティ等の分野の重要性が叫ばれる中、情報技術やネットワーク技術に関する実践的な講義・演習を実施すべきであろうというポリシーのもとに、文部科学省は、enPiT (Education Network for Practical Information Technologies) という教育プログラムを平成24年に立ち上げました。enPiTの対象は修士学生でしたが、効果がすばらしいということで、平成28年度には学部生を対象とした同じ名前の教育プログラム(以下、enPiT2と呼びます)を立ち上げました。岡山大学は、enPiT2のセキュリティ分野(enPiT2-Securityと呼びます)に、東北大学を中心とする10

の大学と連携して共同で申請し採択されました。当学科と情報系学科が岡山大学におけるenPiT2-Securityの実施主体となっており、平成28年度のトライアルを経て、平成29年度が本格実施の開始年度になりました。enPiT2-Securityでは、連携する大学の各学生は、自分の所属する大学が提供する講義・演習科目を受講できるとともに、他大学が開講する講義・演習科目も受講することができます。岡山大学工学部では、1つの座学科目(セキュリティ総論E)と3つのPBL演習科目を提供しました。これらの科目の受講者は、岡山大学工学部の他、京都大学、九州大学、北九州市立大学、岡山理科大学でした。このように、enPiT2-Securityの講義・演習を受けることにより、最新の実践的なセキュリティ技術を学べるとともに、他大学の学生と交流できることが魅力となっています。enPiT2-Securityでは、ある一定数の科目を受講して単位を取得した場合、セキュリティに関する一定の知識を得たということで、修了証を与えています。平成29年度は、全国で約200人が修了しましたが、そのうち岡山大学工学部の学生は約80人であり、5分の2を占めています。平成30年度では、修了を目指す岡山大学工学部の学生は100人を超えています。enPiT2-Securityでは、講義や演習で協力していただく企業を募集しております。興味のある方は、<https://www.seccap.jp/basic/>のサイトを見ていただけたらと思います。

最後に、岡山大学ホームカミングデイ2018が、10月20日(土)に開催される予定です。当学科では、当日あるいはその前後の日に、イベントを計画しております。皆様、是非、岡山まで来ていただけたらと思っております。よろしくお願い致します。

情報系学科の近況

情報系学科・学科長 谷口 秀夫

平成30年度の学科長を仰せつかりました谷口です。就職担当も行っております。平成28年度末に理事・副学長を終え、1年間の復帰準備をさせて頂きました。

情報系学科は、教授7名、准教授3名、講師3名、助教7名の計20名体制(さらに、助手1名)で教育と研究を進めております。昨年4月にZeynep助教が着任して以来、変更はありません。なお、阿部教授は、今年度より工学部長としてもご活躍されています。

平成28年度から導入した「60分4学期制」は、3年目に入り、実施に基づく反省や改良を行い、着実に実行しています。また、セキュリティ教育を推進するenPiT事業にも

積極的に参加しており、学生の参加も進んでいます。学生は、学部学生だけではなく大学院学生の参加も積極的です。情報分野において、セキュリティに関する知識や技術は重要化していますので、専門科目としての取り組みも強化して行くことを検討しています。

学生の就職活動は、先輩方のご協力を頂き順調です。学部学生20名程度と大学院学生の大半が就職予定です。「売り手市場」であることに加え、「IoT、AI、ビッグデータ処理」といったキーワードが着目されていますので、多くの企業からの求人希望を頂いております。特に、「一見、情報分野とは無縁」と思える企業の方の訪問も受けており、「初

めて情報系学科に挨拶に来た」という企業も数社あります。情報人材獲得の要求が非常に多いことを感じた次第です。

なお、以下の日程でオープンキャンパスとホームカミングデイを実施します。

- ・オープンキャンパス
平成30年8月9日と10日
- ・ホームカミングデイ
平成30年10月20日

お立ち寄り頂き、現在の大学の雰囲気を味わっていただきたいと思えます。

末筆ではございますが、皆様のご多幸とご健勝ならびにご活躍をお祈り申し上げます。今後も、よろしく願いたします。



化学生命系学科（旧物質応用化学科・旧生物機能工学科）の近況報告

化学生命系学科・学科長 藤井 達生



同窓生の皆様、ならびに旧教職員の皆様におかれましては、ますますご清祥にお過ごしのことと拝察申し上げます。学科を代表して、本学科の近況をご報告させていただきます。

まず、前会報以降に生じた当学科の教職員の移動については、平成29年8月末をもって水谷昭文

助教（ナノバイオシステム分子設計学）が任期満了により、また平成30年3月末をもって林秀考 准教授（無機物性化学）がご定年により、小西敏功 助教（無機バイオ材料工学）が転出により、岡山大学をご退職されました。一方、新たに本学科の教員として、平成29年12月に溝口玄樹 助教（生物有機化学）、平成30年4月に岡田宣宏 助教（ナノバイオシステム分子設計学）が着任されました。くわえて、平成30年4月付で増田潤子 助教（1分子設計学）がWTT（ウーマン・テニユア・トラック）教員からテニユア教員に、寺西貴志 准教授（無機物性化学）が助教から内部昇任されております。

次に、学部教育については、平成28年度に導入された「60分授業・4学期制」も3年目となり、教職員、学生にすっかりと定着した感があります。従来の90分授業を、10分間の休憩をはさんで60分×2の授業へと変えることで、学生の学習量の増加を図り、学生の理解度を高めることを期したわけですが、さらに平成29年度から

は、4学期制のメリットを最大限に生かすべく、4年生の研究室配属の時期を3年生4学期からとし、従来から3ヶ月ほど前倒いたしました。これにより、卒業予定者から新4年生へとスムーズな研究テーマの引き継ぎが可能となり、早期に卒業研究をスタートできるようになりました。

一方、大学院教育に関して、本学科は、平成27年度から応用化学専攻と生命医用工学専攻の2専攻体制となっておりましたが、平成30年4月をもって医用生命工学専攻は大学院自然科学研究科から独立し、大学院ヘルスシステム統合科学研究科ヘルスシステム統合科学専攻へと発展的に改組されております。このため、旧物質応用化学科と旧生物機能工学科が統合し、平成23年に誕生した本学科ではありますが、10年を待たずして大学院においては、それぞれの教育研究分野が理想とする姿を求め、新たな道へと進み始めたところです。

このように本学科は、大学を取り巻く環境の変化に対応して、柔軟にその形を変化させておりますが、工業化学科（昭和35年設置）に始まる創成期から培われてきた学科の理念や雰囲気は、綿々と受け継いでおります。秋には恒例のホームカミングデイも予定されておりますので、是非ともお立ち寄りいただき、先輩諸氏からのご指導ご鞭撻を頂けると幸いです。

2018年度 工学部同窓会報告会・懇親会のご案内

岡山大学工学部同窓会では、昨年につき、本年10月20日（土）に「工学部同窓会報告会」と「懇親会」を計画しています。当日は、「岡山大学スーパーグローバルホームカミングデー」のいろいろな全学的な企画、工学部の研究室開放、およびOB講演会等も計画されています。

スーパーグローバルホームカミングデーとは「岡山大学の同窓生および教職員OBに、再び岡山大学に足を運んでいただき、大学の近況に触れ、恩師や同窓会、在学生、教職員との交流を深めていただくイベント」です。同窓生OBが主要なゲストです。懐かしい岡山大学の変貌をぜひご覧ください。詳細は岡山大学 Alumni（全学同窓会）、工学部、および工学部同窓会ホームページを参照ください。この機会に会員相互の懇親を深め、同窓会への一層のご理解を戴ければ幸いです。気楽にご参加下さい。



2017年度 工学部同窓会報告会（2017.10.21）



懇親会（ピーチユニオン）

工学部同窓会報告会

日 時：2018年10月20日（土）15：30～16：30（受付開始：15：00）

場 所：岡山大学工学部1号館1番教室（本館1階）

- 1) 工学部同窓会の活動と課題について（工学部同窓会代表幹事、他）
支部活動（関東、関西、岡山）についてもご報告いたします。
- 2) 工学部の最近の活動について（工学部副学部長）
- 3) 大学院自然科学研究科の現状について（大学院自然科学研究科副研究科長）
- 4) 意見交換

工学部同窓会懇親会（17：00～18：30；受付開始16：30）

同窓生と工学部現旧教員を交えた懇親の時をもち、いろいろな情報交換や旧交を温める機会としたいと思います。気軽に参加して下さい。

場 所：岡山大学生協南福利施設（ピーチユニオン4階）

懇親会費：2,000円（含アルコール：工学部同窓会報告会受付にてお支払いください）

事前参加申し込み：10月12日（金）までに、後日お送りします「はがき」またはメール（同窓会事務局、ofst@okayama-u.ac.jp）にて、学科、卒業年、氏名等をご連絡下さい。

旧生物系同窓会

6号館1階ホールの
時計をオーバーホール！

学科設立当時、学生有志で出資して卒業記念品として寄贈された時計（平成6年3月）

故障…
内部にカビ



2017年度 工学部学科同窓会活動報告

岡山大学ホームカミングデイでの報告 2017.10.20

機械システム系学科同窓会

機械システム系学科同窓会活動報告

役員

- ・学外幹事 尾崎 公一 (H2修), 和田 弥太郎 (H12卒)
- ・報告者 大西 孝 (H18卒, 学内幹事), 永井 伊作 (H7卒, 学内幹事)

活動概要

1. 同コース共同の新入生に対する入会案内
2. 現役学生への支援
機械工学コース「機械系エンジニアの歩き方」の後援
システム工学コース「学習環境、就活環境向上のための寄贈」
3. 卒業生による同窓会開催への支援 (2件/H27年度)

1. 「機械系エンジニアの歩き方」の後援

- ・機械系卒業生が集い、在学生への助言も含めて企業を紹介
- ・同窓会主催の懇親会を開催し、相互交流の機会アップ
- ・卒業生と在学生をつなぎ、両者の役に立てる企画

各年度の参加企業数	懇親会で企業の先輩の激励を受ける在学生
2007年度	100社
2008年度	91社
2009年度	89社
2010年度	97社
2011年度	105社
2012年度	82社
2013年度	100社
2014年度	89社
2015年度	100社
2016年度	94社

和やかな雰囲気での交流会

本年度の実施予定: 2018年1月12日(金) 於: ビュリアティまきび

2. 学習環境、就活環境向上のための寄贈



- 現役学生のための寄贈活動
- 超短焦点型 液晶プロジェクターとスクリーンを2式寄贈 (2013年12月)
 - 就職情報掲示のための掲示板 (2015年7月)

電気通信系学科同窓会

電気通信系同窓会活動報告

活動概要

1. 同窓会等開催補助
2. 学生の就職活動への支援

1. 同窓会等開催補助

年度	件数
平成25年度	3件
平成26年度	3件
平成27年度	8件
平成28年度	9件
平成29年度	3件



2. 学生の就職活動への支援

(1) キャリア形成のための意見交換会

- ・就職活動が本格化する前に学内で開催
- ・電気通信系学科卒業生が来学し、在学生へアドバイス
 - 会社の業務内容や研修について具体的な情報を聞いた
 - 一般の説明会では聞けない内容を聞いた

年度	卒業生数	参加者
2010	4名	43名
2011	4名	21名
2012	10名	23名
2013	8名	10名
2014	7名	34名
2015	8名	64名
2016	7名	56名
2017	7名	-

2016~2017年度は1月に開催。2018年度は10月26日(金)に開催

(2) 就活生と卒業生の懇親会

- ・日時: 2017年2月22日(水)
- ・場所: 大学生協食堂 ベーテユニオン
- ・電気通信系学科との共催
- ・参加者数: 122名 (卒業生18名、学部生24名、大学院生58名)
- ・内容: 企業説明
 - ビュッフェ形式の食事をしながら学生が各社のテーブルを訪問
 - 一般の企業説明会と比較しざっくばらんに情報交換できる



情報系学科同窓会

情報系学科同窓会活動報告

情報系学科助教 新妻 弘康

役員

- ・幹事(外) 池本 文典(内山工業(株), 平3卒)
- ・幹事(内) 新妻 弘康

活動概要

1. 情報系学科ホームカミングデイの活動報告
2. 情報系学科同窓会(情報工学会)の活動

1. 情報系学科ホームカミングデイの活動報告

- 研究室訪問: 教員と情報系学科OBとの交流の場
- 研究紹介イベント: ポスター形式で研究室の活動内容を紹介
- 「OB、現役生、教員の交流イベント」
- ・情報系学科長による学科紹介
- ・情報工学科OBによる講演会 石井育規氏(株)パナソニック 2003年卒



昨年の情報系学科イベントの様子 (左) 研究紹介イベントの様子、(右) OB講演会の様子

2. 情報系学科同窓会(情報工学会)の活動

- 工学部同窓会ホームページのコンテンツの充実 <http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.htm>
- 情報系学科のトピック
 - NTT西日本 広島データセンター見学ツアー(2017年11月30日)
 - 情報系学科3年生の授業の一環で実施

化学生命系学科同窓会

化学系生命学科同窓会活動報告

役員

- ・共同代表 植木 清介 (S56卒, 化学系) 井口 勉 (S46卒, 生命系)
- ・報告者 内田 哲也 (H4卒, 化学系) 幹事(学内) 二見 淳一郎 (H6卒, 生命系) 幹事(学内)

活動概要

1. 化学系生命系同窓会の設立総会 (化学系同窓会(工化会)、生物系同窓会 合同総会)
 - 日時: 平成28年10月22日(土) 14:00-15:00
 - 場所: 岡山大学工学部1号館 第2講義室
 - 議題: 化学系生命系同窓会の設立について

活動内容2

新しい世代に期待する化学系生命セミナー

- ・卒業生による在学生への講演会、学生との懇親会

3. 卒業記念集合写真の撮影と配布 (H21年度開始)

- ・卒業記念集合写真(学生と職員全員)の撮影と配布



+その他 卒業生連絡先の集計と管理

職場紹介



岡山市役所総務局総務部情報システム課

坂内 洋平

平成15年3月 大学院 自然科学研究科
電子情報システム工学専攻修了

私は平成9年4月に工学部情報工学科（現情報系学科）に入学し、平成13年4月に大学院自然科学研究科電子情報システム工学専攻に進学しました。そして、平成15年3月に修了し、同年4月に岡山市役所に入庁しました。

岡山市役所では事務職員として採用されたため、入庁時は土木関連の部署に配属され、公道の管理や用地買収などの業務を担当していました。その後、平成21年4月の人事異動にて福祉関連の部署に配属され生活保護業務に従事して、平成26年4月の人事異動により現在の情報システム課に配属となりました。

岡山市役所におけるITに関する部署は、情報政策の企画・総合調整やガバナンス等を担当するICT推進課と、庁内で利用するシステム等（庁内LAN）を扱う情報システム課で構成されており、情報2課として連携し情報施策を進めています。その中で私の担当業務は、各システムのインフラにあたるネットワーク管理で、庁内LANの安定稼働のため関係ベンダーと運用保守を行っています。

庁内LANは、職員向けの内部管理やグループウェア、メール・Web閲覧等を目的とした情報系システムと、市税、国保・年金等のシステムを利用するための業務系システムを論理分離して運用しており、規模としては約7,000人の職員が約7,500台（情報系5,500、業務系2,000台）の端末を、本庁舎を始めとした約450の拠点で利用しています。

ネットワークやシステムに障害が発生すると、市税、国保・年金等の市民サービスに多大な影響を及ぼすこととなります。そのため、機器や回線、重要なシステムの稼働にはSLA（Service Level Agreement）を設定しており、業務継続性を担保しております。また、近年はセキュリティ対策のため、インシデント発生抑制もしくは発生時に被害を最小限に抑える体制づくりやシステムの導入を進めています。

なお、情報2課では、SE等の民間経験がある職員も在籍しており、それぞれ専門性の高い業務に従事しています。私自身の業務についても大学で学んだことに関連することがありますが、異動当初は情報分野へのブランクが長かったため対応に苦慮しました。

公務員志望の工学部在学中の皆様へ

公務員の採用試験は法律関係等の科目が多いですが、私が行った試験対策は6か月間のスクーリングと自宅学習でした。入庁後、工学部であることが特段不利になることはなく、色々な経歴を持った方が事務職員として在籍しています。もちろん、業務に必要な知識の取得は必要で、今までに道路管理や用地買収、生活保護などの業務にかかる研修を受けており、情報システム課でも業務にかかる研修を受けています。

他にも、学部・学科で学んだことを生かせる技術職の採用枠を用意している自治体も数多くあります。採用試験の準備とともに情報収集をしっかりと行うことをおすすめします。

同窓の皆様へ

岡山市役所では、過去に民間企業等においてシステム関連の職務を経験した方を対象とした採用試験を実施しており、本原稿作成時点で、平成30年度も実施予定となっております。興味のある方は、詳細について岡山市の公式サイトをご確認ください。



岡山市ホームページ

<http://www.city.okayama.jp/>





株式会社 林原
研究部門 分析部

伊藤（吉良）理恵

平成8年3月工学研究科 生体機能応用工学専攻
修士課程修了

株式会社林原は、食品や化粧品などでおなじみのトレハロースを作っている地元企業です。トレハロースは、微生物由来の酵素を利用する技術により開発した高付加価値の糖質で、和菓子、ケーキやパン、弁当類など身近なところで用いられています。

また他にも(株)林原では、多糖のプルラン、ビタミンC配糖体であるL-アスコルビン酸2-グルコシド、水飴やマルトースなどに加え、水溶性食物繊維「ファイバリクサ™」、機能性色素を有効成分とする第3類医薬品「ルミン®A」などの製品を製造販売しています。

私は現在、研究部門の分析部に所属しています。研究部門には分析部の他に、新素材開発部、製法検討部、食品開発部、化粧品開発部、ウェルネス部、研究推進室、特許契約部からなっており、約110名の研究員が勤務しています。

現・工学部化学生命系学科の学生の3割が女性ですが、研究部門も研究員の約3割が女性です。出産後も育休を取得して復帰される方が多く、パーソナルタイム制度や午前・午後半休制度を利用し、自由に就業時間を決めて自身のペースで業務を進めています。女性だけでなく、積極的に子育てに参加する男性社員も多く、お昼休みに家事や育児の話題で盛り上がることもあり、お子様の参観日や入学式に出席するためにお休みをとる方もおられます。私自身も2人の小学生の子育て真っ最中で、忙しくも充実した毎日を送っています。

分析部の業務は実に様々で、自社内および顧客から依頼される案件などについて、新規化合物の構造解析、物理化学的測定、製品の分析規格の設定、特許取得のための測定などを行っています。販促資料作成のためのデータ取得、新製品の候補素材の基礎物性評価、また、顧客からのクレーム対応として、SEMによる異物分析やGC-MSによる異臭の原因調査などを行うこともあります。糖質を添加した食品サンプルの味やにおいの官能評価、外観や食感などの違いを数値化することも分析部の仕事です。

現在、私は、トレハロースなどの既存製品や開発中の糖質素材の機能性やメカニズムを明らかにするため、新しい分析技術や評価系を用いたデータの取得を行っています。学会や講演会へ参加して大学関係者や他企業の情報を収集したり、機器メーカーを訪問してデモ測定をお願いしたりすることもあります。

分析機器や分析技術は日々進歩しているので、知識と技術の向上は欠かせません。社内でまだ誰も取り組んでいない新しい分析技術を学び、使いこなすことによって従来の方法では気付かなかった新しい発見をしたり、営業支援につながる効果的なデータを取得したりできた時には、大きなやりがいを感じます。

しかしながら、入社後ずっと分析業務に携わっていたわけではなく、様々な部署で様々な経験をしました。機能性色素の研究部門にいた時には、有機化合物の分離、構造解析を行い、材料を提案するための顧客訪問も経験しました。また、化粧品素材の研究では、化粧品素材の試作、基本物性や安定性の評価、学生時代には経験のなかった細胞を使った生理機能の評価も行いました。現在もなお、勉強の連続です。

会社に入ると、専門外の業務に戸惑うこともあるかもしれませんが、専門分野に固執することなく様々な見方から課題に取り組むこと、また、自ら学び、考え、知識を持っている方々にも積極的に相談し、視野を広げておくことが大切だと考えています。

最後になりましたが、私は、平成2年に新設された生体機能応用工学科の第1期生として大学時代を過ごしました。先輩がいなかったため、文献調査から実験計画、実験方法に至るまで担当教授の宍戸昌彦先生から直接教わったことを思い出します。自分たちで調べ、互いに教え合った当時の経験が現在の業務にも生かされていると感じています。先生方、同期の皆様、そして、今回寄稿のお話を下さった同期の二見淳一郎先生、お世話になり、ありがとうございました。

工学部同窓会岡山支部が平成25年8月に発足して4年目となりました。以来、学科、研究室を超えたOBの交流の場となっています。会員相互の親睦、社会貢献、大学貢献の3本柱の目標を掲げていますが、できることから進めるという段階です。これまでの皆様からのご支援に感謝します。また、これからの活動に気軽に参加して頂きますようお願い致します。

平成29年度の主な活動

■親睦

1. 毎月の親睦会（原則として、第4木曜日 12:00～13:30、岡山ロイヤルホテル バイキング）
2. 岡山支部総会・特別講演会・親睦会（平成29年5月20日、ピュアリティーまきび）:特別講演会:内田哲也准教授（岡山大学大学院自然科学研究科、平成6年修士修了）から「岡山大学方式人工網膜の実用化に向けた取り組み、失明した患者が再び視覚をとりもどせるように」と題してご講演をいただき、活発に質疑が行われました。
3. 納涼ビアガーデン（8月24日、ピュアリティーまきび）
4. 岡山大学グローバルホームカミングデイでの工学部同窓会報告会・懇親会への合流参加（10月21日）
5. 秋のレクリエーション 大原美術館・美観地区散策とアイビースクエア昼食会（11月30日）
6. 忘年会（12月14日、ピュアリティーまきび、北の恵みバイキング）
7. 岡山大学中央図書館「池田文庫見学会」と親睦会（平成30年3月22日）
8. 春の歴史探訪「岡山城の城郭探訪と桜道散策」と親睦会（4月5日、岡山プラザホテル）

■工学部の活動支援

○工学部・経済学部共同講義「実践コミュニケーション論」への講師2名の派遣

■広報活動

1. 工学部同窓会岡山支部

HP: <https://okayama-usakura.ne.jp/wp/>

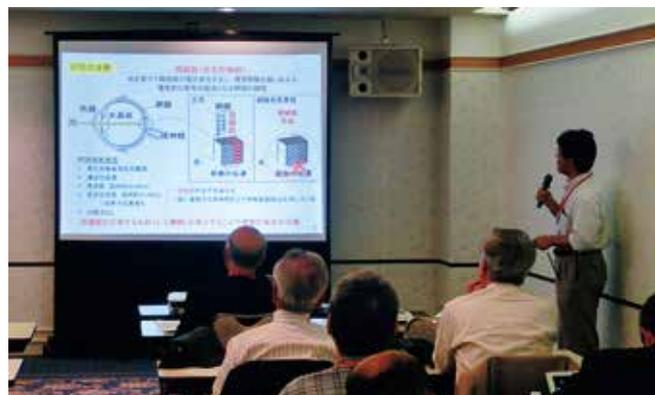
(会員専用欄 パスワード okadaieng)

支部メール: okayamauniversitytech@gmail.com

2. 岡山支部メールマガジンの発行（月刊）

メールで配信希望の方は、支部までメールで連絡下さい。

また、岡山支部HPでも閲覧できます。



① 岡山支部総会：内田哲也准教授による特別講演会 (2017,5,20)



② 岡山支部懇親会 (2017,5,20)



③ 忘年会、ピュアリティーまきび (2017,12,14)



④ 「岡山城の城郭探訪と桜道散策」(2018,4,5)

関西支部は平成26年10月に発足して5年目を迎えました。懇親会は平成28年度より年2回開催（内1回は総会を兼ねる。）しています。

平成29年10月には、大阪府池田市の「がんこ池田石橋苑」で、総会を兼ねた懇親会を、27名の出席者で開催しました。

総会では、活動報告と会計報告等の確認を行いました。

懇親会は、現在関西支部顧問をお願いしている元助教授の石原同志社大学名誉教授の音頭による乾杯と、システム工学をご担当された宮崎名誉教授の挨拶で開始し、出席者の近況報告と学生歌の斉唱などで親睦を深めました。



平成29年10月の総会を兼ねた懇親会出席者

平成30年2月には、大阪市平野区の「がんこ平野郷屋敷」で、新春懇親会を28名の出席者で開催しました。石原名誉教授・宮崎名誉教授および工学部同窓会代表幹事の酒井名誉教授のご出席を頂きました。

初めての出席者も3名あり、出席者は近況報告と学生歌の斉唱などで大いに盛り上がりました。



平成30年2月の新春懇親会出席者

今回の平成30年度の総会を兼ねた懇親会は、京都の由緒ある聖護院門跡（史跡・旧仮皇居、山伏の総本山）に会場を移し、以下の予定をしています。（出席申込者には別途詳細を報告。）

- ・日 時 平成30年9月8日（土）11時40分～14時30分（予定）
- ・場 所 聖護院御殿荘 光淳 京都市左京区聖護院中町15 電話075-771-4151
- ・会 費 5000円（予定）

関西支部懇親会もリピート出席の会員が増え、会員間の親睦も深まっています。

懇親会開始前に聖護院門跡の拝観（拝観料同窓会負担）も予定していますので、お誘い合わせの上ご出席をお願いします。詳細は世話役（大森 勝（電気2期）：momoritakatsuki0822@gmail.com）まで問い合わせをお願いします。

岡山大学・工学部卒業生の皆様、日々お元気でご活躍されている事とお慶び申し上げます。

私、関東支部の幹事(支部長)笹川廣太郎でございます。役目は、全学同窓会組織であるAlumni理事会への出席、関東での全学同窓会開催における工学部幹事、その他交流会の企画～実施などです。凡その会員数ですが、2017年7月現在の工学部卒業生のうち関東地域(東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城)に在住されている人は名簿からは約300名いらっしゃいます。

さて、昨年度(2017年)は7月29日(土)に岡山大学全学同窓会(Alumni:アラムナイ)東京支部交流会を東京都千代田区神田錦町の学士会館で開催いたしました。学部別では法学部34、文学部2、経済学部9、工学部13、農学部14、理学部7、環境理工2、医学部2、教育学部1、来賓・大学関係者14合計98名の参加者でAlumni会長兼Alumni関東支部長の小長啓一様(昭和28年卒、当時の通産省(現 経済産業省)入省、田中角栄内閣の首相秘書官)の開会式辞にはじまり、来賓から榎野岡山大学長、工学部からは阿部匡伸副部长他の方々からそれぞれ大学の経営戦略と実績、工学部の研究戦略や実績などのご報告を受けました。来賓による挨拶の後、応援団2名による岡大応援デモンストレーション演武が行われ、その後、各部関係者による近況活動報告など含めてにぎやかなひと時でした。第二部は同じ会場で各学部別のテーブルに分かれて現在の仕事や環境など様々な分野の話題と情報交換であつというまの半日を過ごしました。なおこのイベントは、毎年夏に全学合同で開催されますが、今年(2018年)は7月28日(土)13:00～開催予定です。6月には会員の皆様に、名簿更新(兼)イベントへの出欠往復はがきがお手元に郵送される予定です。ぜひお時間をはかりご参加をお待ち申し上げます。

また、本年3月には工学部だけでフォーマルでない懇親会を開催し、新宿の居酒屋で昨今の仕事や趣味、政治経済など情報交換で盛り上がりました。今後は個人情報漏洩事故を起こさぬような仕組みを組み入れたSNS等のネットでの交流の場も企画し世代を超えた情報共有ができればと思います。皆様のご意見を頂ければ幸いです。

さて、皆様ご存知の通り、岡山大学では、在校生の就活、卒業生の交流を活発化させるため、『岡山大学・東京オフィス』を東京駅前に置いていましたが、本年4月から東京都港区芝浦3-3-6にある東京工業大学田町キャンパス内に移転しました。そこでは『岡山大学卒業生フォローアップセミナー』を定期的に開催し、岡大卒業関係者で社会的に活躍されている人による講演会や交流会を開催しています。さらに最近のニュースでは、『岡山大学が国連の持続可能な開発目標SDGsに関する優れた取り組みをした団体として政府の推進本部(本部長安倍総理大臣)より国立大学で唯一表彰を受けたというニュースです。耳に快いですね。頑張れ岡大、そして工学部。



第16回NT会が、昨年10月17日にご逝去された中島利勝先生を偲ぶ会として2018年4月28日（土）にまつのき亭で開催されました。参加した38名の元教員と卒業生は、学生当時や卒業後も中島先生にお世話になった思い出を話しながら、和やかに中島先生を偲びました。なお、本会の開催にあたり、機械系同窓会より補助金をいただきました。



野木茂次先生を偲ぶ

～もう少し一緒にいたかった～

通信ネットワーク工学科 名誉教授 森川良孝



故 野木 茂次先生

私は、1972年4月に松下電器を退職後岡山大学電子工学科制御工学研究室助手として着任しました。学科内で紹介をしていただいた折に、丁度1年前に野木先生が三菱電機をご退職後、同学科電子回路工学研究室の助手として着任されておりました。私は1年浪人しておりますので、野木先生は同い年になります。47年間ほぼ同一の分野で、私事から研究に至るまでご相談に乗ってもらいました。まさによき友でありました。

野木先生は、研究室名は電子回路工学でしたが、マイクロ波増幅回路における非線形現象の応用について研究をされておりました。当時波形の形を崩さず伝播するソリトン（孤立波）がいろいろな分野で話題として取り上げられておりましたが、ソリトン波には伝播路が非線形媒質であることを熱く語っておられたことが思い出されます。私は、研究分野が制御工学であるものの、修士時代は進行波管の非線形動作をやっておりましたので、野木先生の話は興味深くお伺いすることができました。制御工学の分野でも非線形を利用するというのが話題になっておりました。いろいろな分野で同時に話題に挙がるのは今も昔も同じです。

私が着任して間もなく、野木先生から岡山大学職員組合の加入を強く勧められました。当時我々よりも高齢の先生方には、社会主義運動の一環であると組合運動も嫌だと考えられている人が多かったようです。工学部でも各学科の加入者が5名以下の状況でした。こんな中で、大学が真理

探究の場であり、人権についてもあるべき姿を求めるべきであると強く主張されておりました。私も結局加入し、以下退職に至るまで野木先生も私も数少ない職員組合の会員でした。

2000年には、電子工学科から通信ネットワーク工学科が分離し、私は新学科に移動し、野木先生とは異なる学科になりましたが、折にふれてよく話をしておりました。この前年、「世界で通用する技術者」を育成するプログラムをもつ大学を認定する日本技術者教育認定機構（通称JABEE）が設立され、工学部でもその認定を受ける取り組みが話題になりました。2006年、野木先生が工学部長となられ、このJABEEに認定を全国に先駆けて取られました。そうとうの苦労があったと思います。その後大学の独立法人化等問題が山積しておりましたが、その都度リーダーシップを発揮され、独法化後の工学部の原型をその時創られました。

2011年退職後、工学部長の業績が認められ、研究推進産学官連携機構研究推進本部長に指名され、今度は大学全体の研究推進にご尽力することになりました。2013年には、岡山大学は研究大学強化促進事業（全国で16大学）に採択され、世界のトップクラスの大学と伍して研究・教育を実施する大学になりました。このときの申請には、野木先生が相当苦勞されたものとおもっております。その後ポスドクのキャリア支援事業に熱意をももやされましたが、2018年病にむしばまれ72歳の人生を終えられました。

もう少し岡山大学のために仕事をしてほしかったと思いますが、致し方ありません。あの世では好きなクラシック音楽を聴いておられると思いますが、安らかにお眠りください。

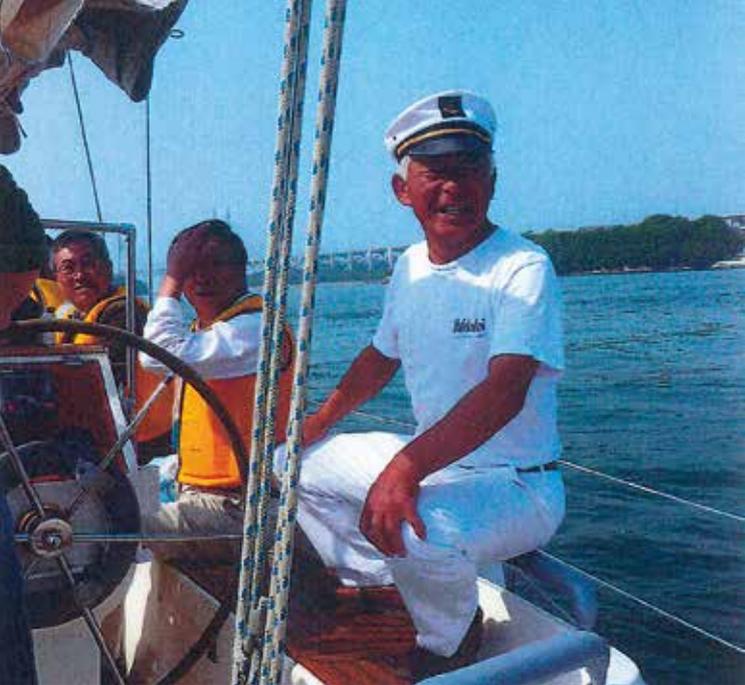
柳瀬眞一郎先生退職記念祝賀会報告

世話人 河内俊憲、永田靖典



柳瀬先生は昭和55年から38年間に渡り岡山大学で教鞭を執られてこられました。このたび平成30年3月末をもちまして定年退職となり、4月29日（日）に岡山市のピュアリティまきびにおきまして退職記念祝賀会を開催しました。参加者は96名で、このうち卒業生が74名集いました。柳瀬先生とゆかりのある先生方や卒業生からのお言葉として思い出話などを頂き、和やかな雰囲気を楽しみひとときを過ごしました。本会の開催において機械系同窓会より助成を賜るとともに、多大なご協力をいただいたことに深く感謝申し上げます。





「ヨット人生夢航海」

機械工学科 昭和43年卒 石井 泰三

平成30年2月24日、工学部同窓会関西支部の懇親会へ出席しました。S42年卒が最年長でしたので私も同じ組になります。会報の寄稿を依頼されましたので考えてみましたが、私にはヨットとの関係が一番でした。正に題名の通りです。

第1章 「夢の発端」

入学前から興味があり（S37 マーメイド号 5.8m の太平洋横断 94 日間とは関係ありません）入学と同時にヨット部へ入りました。部活は私の夢とは少し違っていたのです。夢を具体的に認識したら「自由にヨットに乗り知らない所へ行き海を楽しむ」事でした。その為には自分のヨットが必要です。金が無いので自作しかありません。有名なヨット設計家の横山晃^{アキラ}氏を横浜へ訪ね、助言をもらい Y-15 (4.6m) の設計図を買って帰りました。ヨット部同期の2名と自作にかかり1年半後の S41 夏に宇野港で進水しました。これからは夢から夢へと続くこととなります。大学最後の夏休み（S42）に Y-15 で私と桑田と2名で宇野～宮島往復10日間のクルージングをやりました。今考えれば、かなり無謀だったか？ヨットに熱中している時、2年の春休みに母が病死して天涯孤独となりました。

第2章 「仕事とヨット」

なんとか卒業して社会人となり（S43）大阪で勤務しました。次のヨットが欲しくなり、再度横山氏を訪ね玄クラク（6.4m）の設計図を買いました。もう自作は無理なので、小豆島の造船所へ頼みました。S44 夏に進水でしたが、ちょうど見合い中でした。縁があり、S45 春に結婚式です。新婚旅行は新ヨットで渋川海岸から下津井の沖の六口島です。「Just Married」の吹流しをマストにかかげ、見送られて浜を離れるのは「瀬戸の花嫁」（S47）でした。旅館の「六口島花壇」（10 数年前の台風被害により廃業）での初夜、枕元に懐中電灯があり、何の為か

など思っていたら全館消灯となり真っ暗となりました。当時まだ自家発電だったのです。翌朝に旅館の人から「昨日テレビに出ていたよ」と言われても室にはテレビは無かったし、私達は未だに見たことがありません。勤務地は大阪、ヨットは渋川ですので乗りたくてもなかなか帰れません。当時の日本は東京オリンピック（S39）、大阪万博（S45）等で「行け進め」でモーレツでした。やはり、仕事第一、ヨット第二、家庭第三でした。お金はいくらでも欲しいですが、それより休みが欲しかったものです。これは定年を待つしかないと諦めて、機会があれば他人のヨットへも乗っていました。一番の思い出はアリランヨットレース（S51 釜山→博多）へ参加したことです。定年後の夢を描いていました。第一に資金です。40代に積立型生命保険に入り60才満期で、当時のパンフレットでは配当が多くて2倍位になるバラ色でした。その後はバブル崩壊によりご存知の如くガッカリです。

第3章 「ヨットに一目惚れ」

人生の初の一目惚れと言えば女房の事かと思いきや？時の経つのは早く定年近く（58才）だったので、そろそろ目指す中古ヨットを探し始めました。当時は本社勤務で東京に居ました。ディズニーランドの近くの浦安ヨットハーバーで出会ったヨットに一目惚れです。一目惚れとはこういうことかと実感しました。思い描いたイメージに出会うことです。保険は満期前だし、恥もなくスーダラ節（S36）の如く「退職金まで前借りし…」と無茶苦茶でした。このヨットこそ今の「SKAL号」です。乾杯です。全長9.7m、定員16名、トイレ、クーラー、冷蔵庫付です。余談ですが「無くて欲しいのが○号と別荘、持って困るのも○号と別荘」もちろん私には○は金も力もありません。このSKAL号をH16春に陸送で神戸須磨ヨットハーバーへ運びました。私は東京ですので別居生活です。

第4章 「夢の実現」

めでたく定年^{プラス} + 2年で退職 (H19 春) です。神戸の家へ帰り「さあやるぞ」と人生で又々幸せを感じました。ヨットハーバーは車で10分程と近く、毎日通い改造や手入れをしました。前章の余談のごとく日常のメンテナンスが大切です。海上でのトラブルは他人を頼りません。全て自分で直さなければなりません。最初のクルージングは五島列島～長崎と決めていました。H20 春、女房と2人で45日間ヨット生活です。風呂だけは寄港地で探したり、頼み込みました。食事でも外食は楽しみでした。往路の玄界灘ではシケられて怖い思いをしました。でも平戸-ハウステンボス-長崎-五島の海と島々と教会等は特に良かったです。全てが順風満帆ではありません。2人共体調は問題無く元気でしたが、よく言い合いました。原因は水です。SKAL 号は90+20^{プラス}ℓの水のみで、飲料・料理と食器洗いをしますが、女房は家と同じです。寄港地でポリタンクで水をもらいに行くのですが大変ですし、どこでも水は貴重です。私の航海は基本的には全て一人「シングルハンド」です。余りに快適な時は独り占めするのが勿体無いと思い、友人、知人を誘います。少しでも多くの人に海を味わってもらいたいです。でも今の若い人はヨットに興味もなく、乗ってくれません。

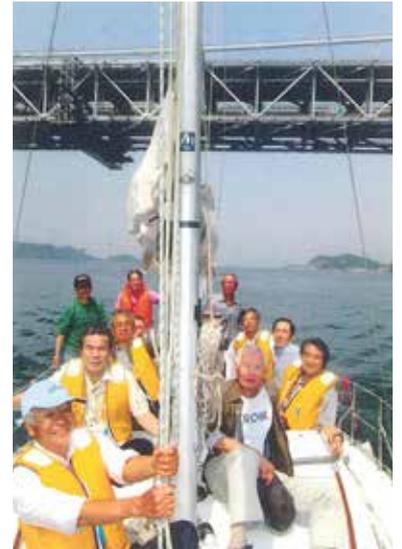
第5章 「死ぬまでヨットか」

タイトルが極端ですが今の心境はこれくらいです。SKAL 号は24才、私は73才でどちらが先にダメになるかです。2年前に手離そうかと思ったのですが諦め切れません。人との絆よりは一方的ですが強いです。結論として「death match」です。それならば元気でやれる時に存分にやろうと思い、昨年からは意識して多く乗っています。年間で90日前後ヨットへ行っています。この1月も宇野まで4日間行き、3月は牛窓ヨットハーバーで上架して船底塗装を行い、4～5月は再度五島列島～長崎へ50日間のクルージングをしました。

第6章 「思い出話。カナダ人夫妻との出会い」

H25 春、大学ヨット部の先輩方と共に九州一周クルージングをしました。瀬戸内海→宮崎沖→種子島→屋久島→口永良部島 (H27.5 噴火) →硫黄島 (俊寛の島流しでは喜界島) →山川港→甕島→天草→小浜港→長崎出島→五島列島→平戸→玄界島→関門海峡→神戸を4/25～6/27で回りました。この時、平戸でイギリス人夫妻のヨットに出会いました。名前はコグラン・ニックとジェニです。カナダ外交官として南アフリカ領事をしていました。休職し小型ヨット (8.5m) を買い、ケープタウンを出て西廻りで、南米のマゼラン海峡を抜け、チリ西

岸を北上してガラパゴス島→ニュージーランド→沖縄から日本へ入国していました。平戸から5ヶ月かけて瀬戸内海を抜け神戸へ来ました。もう冬になる為、バンクーバーへは帰れないので、翌年4月まで神戸でヨットを停泊していました。年は私より5～6才若くて、子供はいなくて姉さん女房でし



4年前の機械工学科43卒同期会を鷺羽山、下電ホテルで行った時の写真です。

た。神戸滞在中の6ヵ月間に、北海道の雪まつりや、京都、奈良、海外へも行っていました。1ヶ月は祖国イギリスへ帰り、1ヶ月はアルゼンチンの南のフォークランド島の近くへ、ペンギン見物に行っていました。私も車で、山陰方面 (出雲-安来 (白鳥) -松江-三朝 (♫) -鳥取-豊岡 (コウノトリ)) を案内しました。彼らは鳥、動物が好きで彼らのヨット名は「ボースンバード」でした。彼らは「布団乾燥機」を珍しがりました。ヨット生活で寝る時には何も着ないと言っていました。三朝でも夫婦いっしょに温泉へ入っていました。4月中旬に神戸を出て、伊豆半島の下田港から出国しましたが台風が連続して来た為、2週間程下田港で足止めとなっていました。そんな時、寝入りばなに、私の枕元の携帯が鳴るので出ると、下田警察からでした。何なんだと思ったら、拾得物の財布の中のメモに私の番号があったからです。私からコグランさんへ連絡する方法がなかったので、警察の方へ「下田港のどこかにカナダマークの付いた小さなヨットが居るはずなので、その方の財布です」と話しました。後で判った事ですが、警察がヨットまで届けてくれました。コグラン夫妻は大変喜んだと思うし、日本は名実共に素晴らしい国だと思ったことでしょう。私の半世紀のヨット人生の一部でした。

おわり

PS. ボースンバードは千島列島→アリューシャン列島→アラスカへ寄りながらバンクーバーへ無事帰りました。外交官へ復職して南スーダン大使として赴任しました。日本に居る時、南スーダンは危険だけれど手当が良いと言っていました。そしてH28夏に退職した事をインターネットで知りました。今頃はまた、世界のどこかの海を走っていることでしょう。再会でできれば幸せです。

[新任教員の紹介]

○ 29年12月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科（工）（化学生命系学科）
Dartmouth College 博士研究員

助教 溝口 玄樹

○ 30年4月1日付け就任

- ・大学院ヘルスシステム統合科学研究科（工）（化学生命系学科）
金沢大学特任助教

助教 岡田 宜宏

- ・大学院ヘルスシステム統合科学研究科（工）（化学生命系学科）

助教 増田 潤子

- ・大学院自然科学研究科（工）（機械システム系学科）
首都大学東京特任助教

助教 戸田 雄一郎

- ・大学院自然科学研究科（工）（機械システム系学科）
東京工業大学助教

准教授 塩田 忠

[昇任教員の紹介]

○ 30年2月1日付け昇任

- ・大学院自然科学研究科（工）（電気通信系学科）

准教授 福島 行信

○ 30年4月1日付け昇任

- ・大学院自然科学研究科（工）（機械システム系学科）

講師 山田 寛

- ・大学院自然科学研究科（工）（化学生命系学科）

准教授 寺西 貴志

[定年、転出、退職教員の紹介]

○ 29年8月31日付け退職

- ・大学院自然科学研究科（工）（化学生命系学科）

助教 水谷 昭文

- ・大学院自然科学研究科（工）（機械システム系学科）
岐阜大学教育学部 准教授

助教 中田 隼矢

○ 30年3月31日付け定年

- ・大学院自然科学研究科（工）（機械システム系学科）
自然科学研究科・特別契約職員教授（特任）

教授 鈴木 和彦

- ・大学院自然科学研究科（工）（機械システム系学科）
自然科学研究科・特別契約職員教授（特任）

教授 柳瀬 眞一郎

- ・大学院自然科学研究科（工）（機械システム系学科）
自然科学研究科・特別契約職員教授（特任）

教授 渡辺 桂吾

- ・大学院自然科学研究科（工）（化学生命系学科）

准教授 林 秀孝

○ 30年3月31日付け退職

- ・大学院自然科学研究科（工）（電気通信系学科）
パナソニック(株)先端研究本部・研究開発

助教 石川 篤

- ・大学院自然科学研究科（工）（電気通信系学科）
高知工科大学システム工学群 准教授

助教 田上周路

- ・大学院自然科学研究科（工）（化学生命系学科）

助教 小西 敏功

- ・大学院自然科学研究科（工）（機械システム系学科）
香川大学創造工学部 教授

講師 前山 祥一

寄附者一覧

工学部同窓会会員の皆様からご寄付いただきました。ご協力ありがとうございました。なお、匿名希望の方につきましては、御名前を載せておりません。「お詫び」昨年平成28年度分ご寄附者名を掲載するべきところ、誤って平成27年度分を掲載していました。誠に申し訳ありませんでした。改めて、平成28年度分とともに、平成29年度分ご寄附者名を掲載させていただきます。

—平成 28 年度分—

機械工学科

- 昭和39 高丹中 桑下川 紘一彦 敏孝一 彦敏孝一
 40 大沼田 戸田昭 允一 雄峻修 久一 明晃三
 41 瀬佐難 光森渡 石川坪 渡清田 福宮安 木村健 江香佐 二藤三 岩梅唯 吉木芝 杉仲野 宮渡山 51 52 54 平成3 6 7 8 18 22 23 28

生産機械工学科

- 昭和44 切清水 45 鳥永西 46 永井尾 47 西尾照

- 48 水西山 谷田本 省英一 三弘満 49 48 50 51 52 54 56 57 61 62 63

応用機械工学科

- 昭和58 世良和 杉山雅 桐畑俊 60

大学院 修士 工学専攻科

- 昭和42 荒川泰正

大学院 修士 機械工学専攻

- 昭和52 内藤俊一

大学院 生産機械工学専攻

- 昭和48 寺岡一夫

大学院 博 生産開発科学専攻

- 平成3 下村孝夫

電気工学科

- 昭和41 田馬井 42 43 44 46 47 48 49 50 51 52

- 53 落落合 54 55 56 57 62

電子工学科

- 昭和47 大小三 48 49 51 52 56 57 61 63

電気電子工学科

- 平成3 5 9 10 15

大学院 電気工学専攻

- 昭和58 寺本勤

大学院 電子工学専攻

- 昭和49 松林定男

大学院 前博 電子情報システム工学専攻

- 平成28 古磯和樹

工業化学科

- 昭和39 清富坂 40 41

- 42 太田 43 44 45 46 47 48 49 50 52 53 54 56 57 58 59 平成元 2

合成化学

- 昭和45 沖鎌酒 46 47 48 49 50

- 51 嶋高藤 53 55 56 57 59

精密応用化学科

- 平成3 4 5 6 8 9 12 14

物質応用化学科

- 平成17 18 22

大学院 工業化学・合成化学専攻

- 昭和53 今林頼 平成4 黄志明

大学院 精密応用化学専攻

- 平成6 徐光重

大学院 博前 応用化学専攻

- 平成28 田中伸明

大学院 博 物質科学専攻

- 平成元 3 田谷口 中本繁

情報工学科

- 平成3 7 11 12 22

生物応用工学科

- 平成3 7

生体機能応用工学科

- 平成7 中山清 井上貴裕

生物機能工学科

- 平成13 20

システム工学科

- 平成13 15 22

25 松岡永樹
通信ネットワーク工学科
平成16 高橋優介
18 泗水康大 弘行
19 藤原谷嘉那子
21 板安永翔

旧職員
宮野中 崎茂 次
金田 田高 次
長谷 屋健 義一
岡本 智卓 一之
上浦 洋卓 爾
小長 浦洋 一郎
岡野 岸野 磨
大宇 野義 爾
高齋 藤照 幸
田東 中善 男
可 見 弘 機
助 夫 毅

——平成29年度分——

機械工学科
昭和39 新井 哲
40 丹下 敏
41 松林 信
42 山川 義
43 荒川 紀
44 杉原 基
45 沼田 弘
46 吉永 昭
47 近藤 寛
48 瀬戸 正
49 西藤 允
50 佐藤 一
51 竹上 尚
52 光岡 照
53 森本 邊
54 渡川 忠
55 守屋 齊
56 清田 秀
57 藤原 克
58 宮安 崎
59 江原 克
60 近藤 憲
61 杉隆 拓
62 平松 志
63 香山 裕
64 佐藤 正
65 長尾 和
66 藤森 文
67 三宅 三
68 岩藤 秀
69 唯岡 和
70 木留 育
71 芝川 重
72 嶋田 哲
73 渡会 悦
74 大賀 寿
75 片山 尚
76 坂本 哲
77 本 雄
78 二 義
79 一 夫
80 男 一
81 二 義
82 一 夫
83 二 義
84 一 夫
85 二 義
86 一 夫
87 二 義
88 一 夫
89 二 義
90 一 夫
91 二 義
92 一 夫
93 二 義
94 一 夫
95 二 義
96 一 夫
97 二 義
98 一 夫
99 二 義
100 一 夫

55 宮園 豊
60 岡城 治
平成3 伊藤 康
4 植木 秀
6 天田 昭
7 大野 正
8 田方 太
9 垣井 秀
10 近藤 純
11 水木 義
13 大岡 正
18 有方 和
22 正分 宏
23 植野 浩
24 茂松 央
29 近藤 雄

生産機械工学科
昭和43 岡村 誠
44 谷村 和
47 岡崎 修
48 神谷 道
49 木原 道
50 永井 誠
51 西尾 常
52 山本 英
53 三宅 正
54 浅野 嘉
55 佐藤 美
56 中藤 信
57 岡島 真
58 多田 哲
59 片岡 郁
60 太田 武
61 宮武 信

応用機械工学科
昭和58 藤原 貴

大学院 修士 機械工学専攻
昭和52 内藤 俊

大学院 生産機械工学専攻
昭和48 寺岡 一

大学院 博前 機械システム工学専攻
平成27 兼信 尚

大学院 博 生産開発科学専攻
平成3 下村 孝

電気工学科
昭和41 乗馬 兼
42 北村 和
43 山本 宣
44 秋網 伊
45 板賀 井
46 石角 南
47 土橋 秀
48 師 務

47 横石 雄
48 田井 良
49 伊藤 義
50 高橋 達
51 三湯 英
52 高松 孝
53 寺田 孝
54 小野 宏
55 三勝 佳
56 高鳥 博
57 前田 浩
58 木村 康
60 豊多野 雅
須野 秀
織江 和
田 耕

電子工学科
昭和47 浅野 光
48 大近 藤
49 三井 関
50 中川 健
51 為房 隆
52 常松 聖
53 松宮 信
54 児玉 士
55 原田 政
56 信定 俊
60 中塚 本
平成2 塚 本

電気電子工学科
平成3 田井 政
6 川西 紀
9 岡田 武
10 安西 康
11 野崎 昌

大学院 電子工学専攻
昭和54 岡田 安
56 高田 巧

大学院 前博 電子情報システム工学専攻
平成28 菅井 良

工業化学科
昭和39 菊地 俊
清永 水
富永 万
坂東 昌
松林 靖
山本 浩
吉尾 哲
40 畑本 一
41 安井 茂
42 赤井 良
43 白椿 正
44 藤原 武
45 尾坂 明
46 村居 有
玉田 三
島居 達
内藤 一
中村 正
難波 正

47 日下部 正
48 松浦 洋
49 作本 成
50 大熊 和
51 長野 告
52 柴田 一
53 白徳 俊
54 山本 裕
55 篠原 幸
56 馬場 正
57 福永 一
58 日植 稔
59 辻清 博
60 越智 志
61 壇上 文
62 藤森 司
63 菅田 智
64 上川 裕
65 辻沼 幸
66 山根 浩
67 田根 時
68 山根 裕

合成化学
昭和45 片山 史
46 鎌木 貴
47 酒井 誠
48 吉川 誠
49 森本 繁
50 河守 徹
51 渡辺 徹
52 片山 純
53 名木 光
54 吉野 元
55 生田 福
56 橋北 康
57 三木 篤
58 山根 英
59 高田 十
60 小島 清
61 藤井 章
62 大坪 良
63 西田 眞
64 河本 眞
65 山中 眞
66 永松 俊
67 牧野 明
68 江田 卓
69 大河 尚
70 布川 隆
71 中村 佳
72 民部 佳
73 福寿 佳

光朗 志
史一 晃
誠夫 一
徹徹 徹
純純 純
光正 元
福福 郎
康康 夫
利利 幸
和和 利
淳淳 司
進進 進
祐祐 祐
作作 則
基基 基
子子 子
功功 功
司司 司
登登 登
志志 志
浩浩 浩
代代 代
厚厚 厚
修修 修
茂茂 茂
昭昭 昭
哲哲 哲
樹樹 樹
子子 子
敦敦 敦
惠惠 惠
古古 古

精密応用化学科
平成3 川手 修
4 重岡 俊
5 河田 良
7 河原 秀
8 原生 昭
14 泉 好

物質応用化学科
平成18 有光 寛
野村 健
25 中尾 行

化学生命系学科
平成29 平岡 諒

大学院 工業化学・合成化学専攻
昭和48 野上 潤
53 今林 頼

大学院 精密応用化学専攻
平成6 徐光 亜

大学院 博前 応用化学専攻
平成28 田中 伸

情報工学科
平成3 平山 浩
5 藤塚 謙
7 小林 一
12 原田 幸
13 田中 徹
14 重岡 健
吉田 真

生物応用工学科
平成5 中野 淳
7 山本 貴
10 三木 善

生体機能応用工学科
平成7 中山 清

生物機能工学科
平成13 吉岡 朋
20 上田 泰
遠部 圭

システム工学科
平成15 福森 嘉
19 五島 壯
20 中島 正
29 秋山 太

通信ネットワーク工学科
平成19 藤原 康

旧職員
小長 哲
秦田 正
福田 祐
嶋本 健
金谷 洋
上浦 一
中大 西
大平 岸
中平 井
中川 真
宮崎 竹
高橋 三
古賀 茂
齋藤 照
岡本 清
東辻 良
佐 昭
樹 子
敦 男
惠 治
古 夫

●平成28年度分
ご寄付者450名(匿名希望149名)
●平成29年度分
ご寄付者436名(匿名希望153名)

同窓会会計報告（平成29年度）

一 般 会 計

収 支 計 算 書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入 会費収入	3,770,000	3,839,920	△ 69,920	384名 { @10,000×383名 @9,920×1名
2. 寄附金収入 寄附金収入	806,000	883,860	△ 77,860	
3. 雑収入 受取利息	100,000	116,327	△ 16,327	普通、郵貯、有価証券
同窓会名簿代	0	5,000	△ 5,000	
当期収入合計(A)	906,000	1,005,187	△ 99,187	
前期繰越収支差額	5,417,639	5,417,639	0	
収入合計(B)	6,323,639	6,422,826	△ 99,187	
II. 支出の部				
1. 事業費	3,580,000	3,333,706	246,294	
通信運搬費	1,063,000	1,022,358	40,642	会報郵送料 他
会議費	200,000	258,140	△ 58,140	学科連絡委員会 他
旅費交通費	100,000	53,380	46,620	関東支部同窓会
印刷製本費	1,537,000	1,368,619	168,381	会報 他
消耗品費	10,000	4,908	5,092	製本テープ
助成金支出	600,000	565,221	34,779	関東・関西・岡山支部
同窓会活性化経費	60,000	60,000	0	HPメンテナンス
雑費	10,000	1,080	8,920	振込手数料
2. 学科事業費	1,191,000	1,236,000	△ 45,000	
学科配分会費	1,191,000	1,236,000	△ 45,000	412名 @3,000円
3. 管理費	465,000	464,800	200	
業務委託費	400,000	400,000	0	(公財)岡山工学振興会
〃	65,000	64,800	200	小野高速印刷株：データメンテナンス
当期支出合計(C)	5,236,000	5,034,506	201,494	
当期収支差額(A)-(C)	△ 4,330,000	△ 4,029,319	△ 300,681	
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,087,639	1,388,320	△ 300,681	

基金特別会計

収 支 計 算 書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科 目	決 算 額	備 考
I. 収入の部		
1. 雑収入 受取利息	145,708	有価証券
当期収入合計(A)	145,708	
前期繰越収支差額	3,147,934	
収入合計(B)	3,293,642	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	145,708	
次期繰越収支差額(B)-(C)	3,293,642	



工学部同窓会ではホームページを通じてみなさまにいろいろな情報をおとどけします。ホームページを充実させるためにみなさまからの情報を募集しています。是非ご協力下さい。例えばこんな情報を募集しています。

- ・同期会、研究室同窓会、など行事のお知らせ
- ・みなさまの近況
- ・同窓生の方がお持ちのホームページ（リンクさせていただきます）
- ・同窓生による寄稿（エッセイ、旅行記、写真などなんでも構いません）

※なお、情報を提供下さった方には、左写真にあります、「岡山大学グッズ」の中からいずれかを進呈します。

ホームページへのご寄稿、ご要望などはofst@cc.okayama-u.ac.jp宛にお願いします。

同窓会事務局より

同窓会報への寄稿などのお願い

会員の方々の寄稿、意見等をお寄せくださいますようお願いいたします。

- 職場報告：600～1200字程度
- 会員グループ報告：600～1200字程度
- 最近の研究から：1200字まで（図・表を含む）
- 会員短信：800字以内（近況、随想、会員や恩師への祝辞、思い出等）
- 通信：400字以内

いずれも写真（顔写真あるいは関連写真）を合わせてご提供ください。

なお、いずれの寄稿につきましても、編集幹事一同の判断により、紙面の都合上内容を損なわない範囲で一部を変更、削除させていただくこと、また極端に内容が不都合であるものについては掲載をしないこと、などをさせていただくことがありますので御了承をお願いいたします。

寄附のお願い

工学部同窓会は、皆様のお力添えに支えられ今日まで活動を行ってまいりました。今後も活発な同窓会活動を継続するためには財務基盤の強化が急務であるため、昨年度に引き続き会員の皆様に寄附のお願いをすることになりました。寄附は一口1,000円からとさせていただきますが、ご都合に応じ何口でも結構でございます。なお、寄附をお寄せ頂いた会員のお名前、卒業学科（専攻）、卒業年度を会報に掲載させていただきます。

会員の皆様におかれましては、寄附の趣旨にご理解を頂き、引き続きご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご寄附は下記宛でお願いいたします

郵便振替01270-4-5233 岡山大学工学部同窓会

*通信欄にはご住所、お名前、電話番号、卒業学科（専攻）、卒業年度、会報への氏名掲載の可否をご記入下さい。

支部活動の助成について

次のとおり支部活動を助成します。幹事、あるいは岡山工学振興会内・岡山大学工学部同窓会(086-255-8311)へ御連絡ください。

- (1) 100人程度を超えるような支部が総会、懇親会等の活動を行う場合に助成する。
- (2) 通信連絡に必要な経費として、小野高速印刷(株)を利用した場合等の実費額と180円/人・回のいずれか安価な額を助成する。
- (3) 懇親会等の会合に要する経費として50,000円/会を助成する。

編集後記

Faculty of Engineering Okayama University

岡山大学工学部同窓会報第30号をお届けいたします。OBの方の職場紹介、ご退職される先生のご挨拶、学科近況、活発な支部の活動紹介など、充実した内容となりました。ご多忙の中、ご寄稿いただきました卒業生の皆さま、本学関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

またこの一年の中で悲しいお知らせがありました。中島利勝名誉教授と野木茂次名誉教授の訃報です。両先生ともに学部長として工学部の発展にご尽力いただきました。謹んで中島先生と野木先生のご冥福をお祈りいたします。

今年四月からは「大学院ヘルスシステム統合科学研究科」が新設され、工学部の一部の研究室が大学院ヘルスシステム統合科学研究科に所属することとなりました。岡山大学工学部をとりまく環境はどんどんかわってきております。同窓会も取り巻く環境の変化に柔軟に対応しながら、また、これまでの歴史とつながりも大切にしながら在校生や同窓生にとって魅力ある存在でいられるように活動をすすめてまいります。引き続き同窓会へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学内代表幹事 内田哲也（化学生命系学科）